

(賛成討論 2020.7.10)

公明党京都市会議員団は、本市会に提案されました令和2年度一般会計補正予算その他の議案に賛成の立場を表明しておりますので、その理由を述べ討論を行います。

九州地方はじめ各地で豪雨災害が相次いでいます。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。折しも今回の補正予算審議において、避難所における感染症対策が深く議論されました。私もホテル等への避難のガイドラインの市民周知や、ますます重要となる市民備蓄の在り方の見直しを求めました。新たな避難の在り方を市民と共有することが安心・安全につながります。あわせて、毎年のように京都を襲う大雨に対し、そもそもの被害を抑えていくための災害防除工事などは引き続き着実に進めていくよう重ねて要望致します。

今回の補正予算において、市民サービスを後退させない前提で、ゼロベースで当初予算を見直し、約16億円の財源を捻出されたことを評価します。感染の第2波、第3派が懸念され、新型コロナ感染症との戦いは長く続くともいわれています。極めて脆弱な財政基盤の本市です。秋からの来年度予算編成にあたっては今回の減額補正の取組みを一里塚として、感染症対策に備えるための財源捻出に努めるべきです。

医療の強化・支援として、コロナ禍において献身的にご活動いただいている医療機関・社会福祉関連施設へ、議員歳費からの捻出による1億円を含めた「支え合い支援金」を活用した支援を行うことを大いに評価します。また、機器の整備と人員強化によって、喫緊の課題となっているPCR検査体制を充実することも高く評価いたします。今後の検査数の目標達成に加え、第2波・第3波等の状況によっては、一層の体制強化をお願いします。

ICT教育の推進は、ますますグローバル化する社会において極めて重要な施策です。GIGAスクール構想の早期実現に向けて丁寧且つ確実な事業実施を求めます。

ウィズコロナの観点からの議案も多く提案されました。

支援対象児童等見守り強化事業については、事業本来の目的である支援を必要とする子どもへの細かな気づきが強化されることが大切です。この事業が単発で終わるのではなく団体との情報共有がしっかり強化されていくことを強く望みます。

市民生活の復興を支援する意味から、京都の持つ文化芸術の力を生かすことは重要です。まちじゅうアートフェスティバルなどの文化芸術への支援が、市内の文化芸術活動に携わる全ての方々と市民へ広く周知され、大きな拡がりとなるよう取り組んでください。

自治会・町内会をベースとした地域活動も疲弊しています。補正予算で提案された新しい地域活動スタイルの紹介・広報や導入支援にとどまらず、今後は経済的支援も含めたより踏み込んだ地域活動支援を行わねばなりません。

徹底した衛生対策と同時に混雑緩和や事前予約制の取組を強化する「新しい観光スタイル」の推進、安心・安全対策を一層進めた「新しい修学旅行」となる京都モデルの発信等、多くの方が安心して訪れていただける京都のまちづくりにしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

コロナ禍により営業収益が激減をしている市バス・地下鉄事業については、公共交通として市民サービスは絶対に低下させないうえで、中期的な見通しを立てて持続的な経営への努力が必要です。

最後に、政府は7日、地方創生臨時交付金の新たな使い道として、特別定額給付金の対象から漏れた新生児等に対し、自治体が独自に給付金を配る場合も、交付金を財源とすることを容認されました。基準日である4月27日を過ぎて生まれたお子さんへの給付は、新型コロナに立ち向かう市民の連帯のため、かねてから我が会派が提案し要望してきたものです。門川市長には、是非前向きにご検討のうえ、その給付を早急に市民へ発表いただくことを求め、賛成討論といたします。御清聴ありがとうございました。

以上